

取組の結果・効果

●社会科（地理的分野／2年生）

資料の充実により、多くの調査結果を基に様々な切り口で地域の事象や特色についての情報を得ることが可能となり、学びが深まった。

●英語（1年生）

生徒は非常に興味を持ち、未習の単語などについても周囲の単語から予測しながら全体の意味を捉えようとしながら聞いていた。

英語や英語圏の文化に親しみ、楽しみながら語彙を増やすことにつながった。

●生徒の視野が広がり、多くの場面で図書資料から情報を得ようとする意識が芽生えた。

●教員の授業場面での図書館活用が広がった。

取組を振り返って

インターネットが身近になり、本を開かなくても情報を集めることは容易になったが、資料の充実により積極的に本から情報を得ようとする生徒の姿勢が見られた。本から情報を集めるとなると、図書室にある本だけでは数が足りないことも多く、資料も十分とは言えないことがあり、どうしてもインターネットでの調べ学習になりがちである。

しかし、情報を得るための手段としてさまざまな方法があることを知り、どう活用していくのかを学ぶことも、生徒にとっては今後更に重要になってくると考える。また、授業の中で図書資料を扱うことは、生徒にとってとても興味深いことであり、視野が広がるということも改めて感じられた。教科書で学んだことが理解できた喜びは、これからの学びにも大きくつながるものであり、関心を持って主体的に授業に取り組むことが期待できる。

◆ 注目 POINT ◆

- 授業に効果的に図書を用いることで、生徒の学習に対する興味関心と読書への意識を同時に引き出している。
- 図書資料を単に学習に活用するだけでなく、図書資料からの情報収集力向上も図っている。
- 生徒だけでなく教員に対しても図書館活用を促し、学校全体の読書推進・図書館活用促進に取り組んでいる。

田子中学校

【生徒数：377人】

(H29. 5. 1 現在)

◆ 実施目標 ◆

生徒の読書の幅を広げ、心豊かに、自ら学び、深く考える生徒の育成。

読書の課題

読書意欲が高い生徒が多く、休憩時間の図書室利用も比較的活発であるが、以下の課題がある。

- 図書展示スペースが限られている
- 蔵書ジャンルが文学に偏っている

取組内容

- 生徒による選書
- 全校での朝読書の実施
- 月ごとのテーマ展示
選書で選んだ本特集、本屋大賞特集、新しい自分特集など。
- 国語科による図書室の利用指導
- 教科での調べ学習
国語科にて方言に関する調べ活動を実施し、発表を行った。



テーマ展示①



テーマ展示②



朝読書



選書会

取組の結果・効果

- 平成 28 年度から貸出冊数が 2 倍に増加し、読書量の増加が見られた。
- 生徒による選書
選書を通して本への関心が高まり、生徒同士のコミュニケーションの増加にもつながった。
- 月ごとのテーマ展示
いつもとは違う種類の本に触れる機会が増えた。
- 教科での調べ学習
本での調べ活動の中で、自ら課題を設定し必要な情報を調べてまとめる作業を取り入れることで、生徒は一つの言葉に立ち止り、考える力を高めることができた。

取組を振り返って

選書を通して、本に対する生徒自身の興味関心が高まるとともに、級友の手に取る本にも興味をもったことで生徒の読む本のジャンルにも広がりが見られるようになった。また、図書室の月ごとのテーマ展示にも、多くの生徒が手を伸ばし、読書への意欲向上、読書量の増加につながった。

今回の取組で、読書に向かう生徒の姿の変容が見られ、大きな成果が得られたと感じた。今後も、同様の取組を行いつつ、個々の生徒に応じたアプローチを考えていきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- 生徒の図書館運営への参加を促したり、中学生が興味をもつようなテーマ展示などの工夫を行うことにより、生徒の図書館や読書に対する関心を引き出し、読書量の増加や多ジャンルの図書を読む機会につなげている。
- 授業で図書館利用の機会をつくり、また図書館の図書を活用することで、読書推進の他に情報収集、集約、考察力などの向上も図っている。

(3) 平成 29 年度モデル校事業の総括・今後

各モデル校において、その学校の状況に応じた子どもの読書や学校図書館活用に関する課題を見出し、解決に向けた取組を行っていただきました。

小学校では、保護者や地域に対しても子どもの読書の重要性や活動の協力を働きかけ、共に子どもの読書活動の推進を図っていました。また、子どもが自ら図書館運営に携わる機会を増やすことから図書館・読書への関心を引き出し、図書館の活性化につなげており、学校ごとに異なる課題を持ちながらも、その解決に向けた取組の基本的な考え方には共通点が見られます。

中学校では、小学校に比べ生徒の余暇時間が少ないことや、教科の学習内容高度化も考慮し、授業において図書館を活用する手法が見受けられました。その取り入れ方の工夫は様々ですが、生徒の図書館活用・読書推進と、情報収集や取捨選択力など学習に寄与する能力の向上を図っており、教科学習の質向上も見据えた効果的な取組となっています。またそのため、小学校以上に教員に対する図書館の活用意識向上に力を入れていることが伺えます。

どのモデル校も、児童生徒の読書活動推進はもちろん、保護者や地域住民など、その周囲の人の読書に対する意識向上も図り、子どもの読書活動を支える環境を整えるべく工夫を凝らした取組を実施していただきました。各モデル校には、今回の事業の実績を踏まえて次年度以降の目標や実施内容を検討し、引き続き取組を推進していただければと存じます。また、平成 29 年度の実施内容や結果・新たに明らかになった課題などを他校にも積極的に共有していただくことで、本市における学校図書館の更なる効果的活用や子どもの読書活動推進に努めていただきたいと考えております。

結びに、真摯に活動に取り組まれた平成 29 年度学校図書館運営モデル校の先生方及び図書事務の方、並びに事業実施へのご支援・ご協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成 29 年度
**仙台市学校図書館運営モデル校
取組事例集**

平成 30 年 10 月発行
仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課
〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目 5 番 12 号
TEL : 022-214-8886 FAX : 022-268-4822
Email : kyo019310@city.sendai.jp